

個に応じた能力開発を可能にする学習環境について

- 2 E(Twice Exceptional)・ギフテッドにとっての課題をもとに-

海外におけるギフテッド教育の例

- ギフテッド・発達障害・その両方の特性を持つ 2E (Twice-Exceptional) も含めた全ての児童・生徒を包摂する、個別最適化された教育環境を、EdTechとデータの力を活用していかに構築すべきかについて議論したい。
- その前提知識として、海外におけるギフテッドや2Eを対象とする教育の概要を簡単に整理した。

1 米国

- 国家防衛教育法（1958年）、ギフテッド・タレンテッド学生教育法（1988年）と連邦政府としても、ギフテッド教育を推進
- それに基づき30超の州がギフテッド教育に関する法律を持っており、特にネバダ州のDavidson Academy（上位0.1%を対象）が有名。同校には、2E向け配慮も存在

2 イスラエル

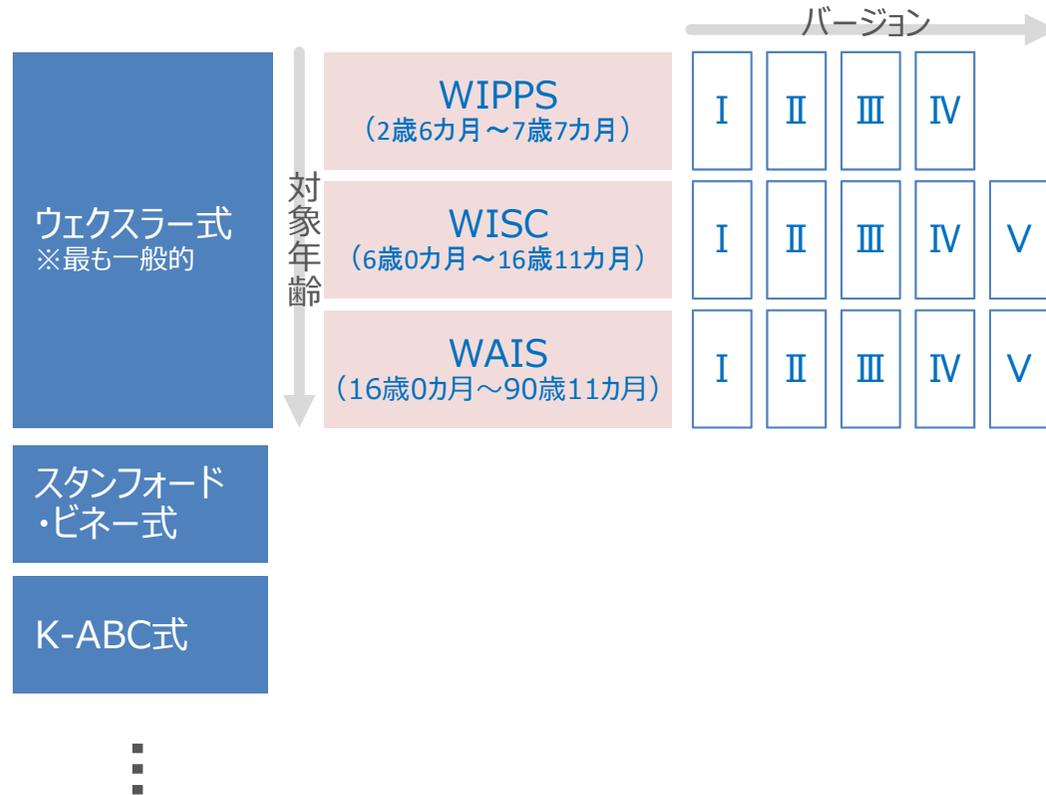
- ギフテッド教育を含むエリート教育を専門に扱う部局department of gifted and outstanding studentsなる機関（上位20%を守備範囲）が存在
- ギフテッド教育を上位8%に提供（上位~3%はギフテッドスクールに通学、上位3~8%は週1のプログラム受講）。

3 シンガポール

- 中学校以降の進路を、小学校卒業時に決めるPSLE（Primary School Leaving Examination）を軸にしたエリート教育が教育システムのベースとして存在
- これに加えて、1984年より、上位1%に対して、更に上位の教育を提供するGEP（Gifted Education Program）を導入

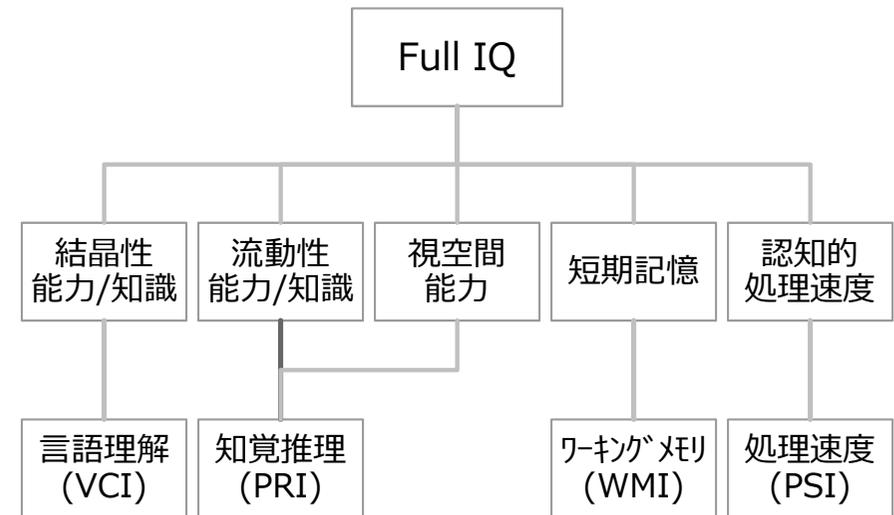
参考) 知能指数について

知能検査の種類



知能指数の構成 (WISC-IVの場合)

知能指数は、同年齢内の偏差をもとに算出され、一般的にIQと呼ばれるFull IQは、更に幾つかの構成要素に分かれる (単純な平均ではなく、各要素の重みを勘案してFull IQを算出)



ギフテッドの選抜には、WISC-III～IVのFull IQ
ないしは一部 (例えばVCIやPRI) が使われることが多い

ギフテッド教育の例① (米国)

基本情報

背景 スプートニク・ショック*後の世論を受け、宇宙・軍事面での人材要請（特に数学・科学分野）にこたえるため、国家防衛教育法が1958年に成立。その後、1988年には、ギフテッド・タレント学生教育法という法律も作られ、連邦としてギフテッド教育を推進してきた。それに基づき、30超の州がギフテッド教育に関する法律を持ち、ネバダ州などでは、公立のギフテッドスクールも存在

有名な事例

『Davidson Academy』

2006年にネバダ州に設立された、全米初のギフテッド向け**公立高校（学費は無料）**

全日/通信制併設で、それぞれ**1学年30名弱**

「上位0.1%の才能を育成する」ことをミッションに掲げており、複数設定している**入学資格も全て"上位0.1%"を意識したもの**

学年の縛りがなく、興味/関心や能力/特性に応じ、学ぶことを選べるPLP (Personalized Learning Plan)という制度が特徴

PLPでは**2E生徒向けのプログラムも選択できる**ようになっており、単なるエリート教育ではなく、2Eへも配慮

Davidson Academyの入学基準と進学実績

入学基準（複数の基準あるが、いずれも**同年代の上位0.1%**を意識して設定）

【知能検査の場合】

- WISC-IVの言語知能/運動知能/一般知性/一般知的能力指標のうち最低1つが145以上
- スタンフォード・ビネー法5版の言語/非言語/一般知能のうち、最低1つが145以上

など

【SAT(日本でいうセンター試験)の場合】

- 小6時ならば、
EBRW（言語系）： 620/800以上
Math: 630/800以上
- 中3時ならば、
EBRW（言語系）： 730/800以上
Math: 750/800以上

など

PLPを軸にした個別最適化カリキュラム

直近の進学実績 ※情報公開されている全日制の数字のみ
(16~18年度に卒業した76名のうち、全米大学ランク(CWUR)上位20を抜粋)

Harvard University (2名)
Stanford university (5名)
Massachusetts Institute of Technology (5名)
University of California, Berkeley (3名)
Princeton University (2名)
Columbia University (1名)
California Institute of Technology (2名)
University of Chicago (3名)

Yale University (1名)
University of California, LA (1名)
University of Washington (1名)

計26/76名が、全米ランキングで上位20までの大学へ進学

Source: ネバダ州HP、デビッドソンアカデミーHP、その他記事検索
*)...ソ連が人類初の人工衛星打ち上げに成功したことに対する西側諸国の動揺
**)...大学入試に用いられる共通の学力試験（日本でいうセンター試験の位置づけ）

ギフテッド教育の例②（イスラエル）

基本情報

- 背景** 地政学上の事情もあり、軍事・教育といった自国の競争力強化を重視
その一環で、優秀な人材に集中して投資をするギフテッド教育にも注力。ギフテッド教育を含むエリート教育を専門に扱う部局(department of gifted and outstanding students)も設置
- 同部局のミッションは"上位20%"の育成
 - ギフテッド教育という名目では上位8%を対象に特別な学校・プログラムを提供

- 概要** 小学校低学年時に2段階の選抜試験を実施
- 選抜への参加は義務ではなく権利

第1次：読解と算数
第2次：知能検査等

第2次試験に合格した子ども（上位8%目安）は、小3～高3*まで以下教育を受ける

上位3%：全日制的ギフテッドスクール
上位3～8%：週1日のギフテッドプログラム
(それ以外は通常の学校)

上記の学校やセンターは、**政府と大学・NPO等が連携**して提供

詳細

小学校
低学年時



【上位3%】 ⇒ 全日制的ギフテッドスクール

- 小3から最大12年生（≒高3）まで
- 通常の学校のカリキュラムに基づくが、より早いペースで進んでいき、余った時間を高度かつ専門的な学びに使える授業構成
 - 例) 天体物理学や電子工学といった専門トピックを大学の教員や大学生と学べる授業 等
- 飛び級制度もあり、成績によっては大学へ早期進学することも可

【上位3～8%】 ⇒ 週1日のギフテッドプログラム

- 基本的には通常の学校に通う
- 週に1日、ギフテッドセンターに通い、通常カリキュラムにはないプログラムを受けることができる権利が認められている
 - 科学や数学といった、所謂STEM系のプログラムが多い
 - 中には、オンラインで受講できるものも存在

ギフテッド教育の例③ (シンガポール)

基本情報

背景 1970年代に能力傾倒主義へ転換して以降、小学校卒業時に受ける試験の成績で中学校以降のコースが決まるPSLE (Primary School Leaving Examination) が国の教育システムのベースに据えられている

加えて、1984年に、上位1%の子どもたちを対象にしたGEP (Gifted Education Program)が更に特別なプログラムが用意・提供されている

概要 小学校3年生時に2段階の選抜試験を実施

- 選抜への参加は義務ではなく権利

第1次：英語/算数 (上位10%まで絞り込み)
第2次：英語/算数/オリジナル知能検査

第2次試験に合格した子ども (上位1%目安) は、小4~6の3年間でGEPで過ごす

- 20名前後と少人数クラスで、個々の強みを伸ばすための指導

GEP卒業後も、**GEP卒業生専用の中高一貫プログラム**が用意されており、大半はそこへ進学 (詳細は右記参照)

教育システム全体とGEPの位置づけ

